平成29年度

愛媛大学大学院理工学研究科

博 士 前 期 課 程

第２次学生募集要項

一　般　選　抜

推薦入学特別選抜

社 会 人 選 抜

外国人留学生選抜

愛媛大学大学院理工学研究科

目　　次

1　アドミッション・ポリシー …… 1
2　募集人員 …… 5
3　一般選抜 …… 6
　⑴出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先 …… 6
　⑵出願資格 …… 6
　⑶出願要件 …… 7
　⑷選抜方法 …… 8
　⑸出願書類等 …… 9
　⑹配点，採点・評価基準，出願要件及び合否判定基準 …… 10
4　自己推薦入学特別選抜（理学系）…… 13
　⑴出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先 …… 13
　⑵出願資格 …… 13
　⑶選抜方法 …… 15
　⑷出願書類等 …… 15
　⑸配点，採点・評価基準，合否判定基準 …… 16
5　推薦入学特別選抜Ⅱ（博士後期課程進学コース） …… 17
　⑴出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先 …… 17
　⑵出願資格 …… 18
　⑶選抜方法 …… 18
　⑷出願書類等 …… 19
6　社会人選抜 …… 20
　⑴出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先 …… 20
　⑵出願資格 …… 20
　⑶選抜方法 …… 21
　⑷出願書類等 …… 22
　⑸配点，採点・評価基準，合否判定基準 …… 23
　⑹大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について …… 25
7　外国人留学生選抜 …… 26
　⑴出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先 …… 26
　⑵出願資格 …… 26
　⑶選抜方法 …… 28
　⑷出願書類等 …… 28
　⑸配点，採点・評価基準，合否判定基準 …… 29
　（別表１，別表２） …… 30
8　障がい等を有する入学志願者の事前相談 …… 33
9　入学手続 …… 33
10　初年度の学費・諸経費等 …… 33
11　その他 …… 33
12　問題，正解・解答例又は出題意図（学力試験）の開示 …… 34
13　理工学研究科の概要 …… 34
（別紙）入学試験個人成績の開示…… 43

〈本研究科所定の用紙〉
- ＊入学志願票（写真票，受験票）
- ＊推薦書（出願資格⑪）
- ＊志願調書（自己推薦入学特別選抜）
- ＊推薦書（推薦入学特別選抜Ⅱ）
- ＊受験許可書
- ＊研究活動調書
- ＊入学資格審査調書
- ＊入学資格審査志望理由書
- ＊検定料払込証明書，払込取扱票
- ＊受験票送付用封筒
- ＊出願書類送付用封筒

1　アドミッション・ポリシー

愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程では，理工学に関連する基礎知識と専攻分野における専門知識を教授し，優れた科学的追求力と応用力をもつ科学技術者，科学研究者を育成しています。そのため，社会人，外国人留学生を含めて学士の学位保持者または相当者を対象に，科学と科学技術のフロンティアに立って社会の福利に貢献することを志す人材を求めています。

入学者選抜にあたっては，能力と意欲について適性を診る面接（口頭試問を含む。）があります。

以下は各専攻・コースの特徴，教育理念・目標，求める人物像です。

〔生産環境工学専攻〕

（機械工学コース）

本コースは，機械の設計・生産システム，エネルギーの変換と有効利用および機械システムの運動・制御の高度な専門知識や先端的な研究能力を持つ機械技術者・研究者を育成することによって，社会の発展および自然との調和に貢献することを理念としています。そのため，次のような資質・素養をもった人を求めています。

1．未知の課題や困難な問題に対して積極的に取り組む意欲のある人
2．技術者・研究者としての教養を高め，人類の幸福や社会に貢献しようとする意欲のある人
3．機械工学およびそれに準ずる専門基礎知識を有する人
4．科学技術的な表現力やコミュニケーション能力を高める意欲のある人

（環境建設工学コース）

本コースでは，社会基盤の建設および維持管理に関する基礎知識を備え，地域，日本あるいは世界を舞台に，自然環境との調和を図りつつ，持続可能な都市／地域／国土のマネジメントにリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しており，次のような資質・素養を持つ人を求めています。

1．専門科目を習得するために必要な一定レベルの学力を有し，人文・社会系科目，理系科目，語学などに幅広く積極的に取り組める人
2．好奇心が強く，人間社会を支える基盤施設，自然環境の保全，豊かな国土やまちづくりなどに興味・関心がある人
3．野外での調査・観測や実験・実習，ならびに外国人を含む様々な考えを持つ人々との交流など，何事にも積極的かつ忍耐力をもって取り組むことができる人
4．自分が得た知識を説明でき，集団の中でリーダーシップを発揮できる人
5．多様な観点から物事を見ることができる人
6．上述した能力を養うために継続的に努力できる人

（船舶工学特別コース）

本コースでは，学部卒業生および造船関連企業の技術者を対象に，これらの企業において中心的な役割を担い，将来の技術革新にも対応できる高度技術者を育成することを目指しています。そのため，次のような資質・素養をもった人を求めています。

1．造船工学を学ぶために必要な基礎学力および専門知識を有する人
2．技術者・研究者としての教養・倫理観を高め，人類の幸福や地域社会に貢献しようとする意欲のある人
3．集団の中でリーダーシップを発揮することができるとともに，未知の課題や困難な問題に対して積極的に取り組む意欲のある人

〔物質生命工学専攻〕

（機能材料工学コース）

本コースでは，材料に対する感性を磨き，物質やその機能に関するより高度な理論と材料工学に関わる応用技術を学びます。さらに，社会人としての豊かな教養および技術者・研究者としての責任感・倫理観などを身につけ，社会に役立つ技術者・研究者を養成することを目指しています。そのため，次のような人を求めています。

1．材料工学を学ぶために必要な基礎学力および専門知識を有する人
2．責任感および倫理観を有する人
3．学習および研究の意欲がある人

（応用化学コース）

本コースでは，化学の様々な分野での研究において，必要な基本的および専門的な方法論を習得し，最先端の研究に携わります。これによって，本コースでは化学の知識と方法を持って応用化学の発展に寄与できる研究者・技術者の育成を目指しています。そのため，次のような人を求めています。

1．自然科学についての基本的事項を理解しており，その知識をもとにしたさらなる勉学と研究に意欲的な人
2．化学とその応用に対する興味と探究心が旺盛で，新しい技術の開発に熱意と適性を有する人
3．化学に関する専門的な知識と経験をもとにして，社会の中で自分を活かす気持ちをもち，それに向けて努力できる人
4．グローバルな視点で物事を考えることができ，化学に関する専門的な知識と経験を活かして国際社会へ貢献できる人
5．研究者・技術者として社会に貢献するために必要な幅広い教養と倫理観を身につけた人

〔電子情報工学専攻〕

（電気電子工学コース）

本コースでは，学士課程で培った基礎素養の上に立って，電気電子工学関連の高度な技術と研究能力を身に付けさせ，先見性と独創性に富んだ人材の育成を目指しています。こうした教育目標を効率的に達成するため，特に次のような資質を有する人を求めています。

1．電気・電子・情報通信工学分野の専門基礎（数学，電気系物理，英語）の知識を有する人
2．電気・電子・情報通信工学分野の専門知識を高めることに意欲をもてる人
3．当該分野において積極的に研究を遂行し，課題の発掘と解決に努力を惜しまない人
4．研究成果を論理的に記述し発表する能力の修得に意欲ある人

（情報工学コース）

本コースでは，広い視野に立って深い学識を授け，情報工学分野における専門知識を活用する能力および同分野における研究能力を有する人材を育成することを教育の目標としています。そのため，次のような人を求めています。

1．急速に発展している情報技術を学び研究するために必要な基礎学力と専門的知識や技能を有する人
2．21世紀のグローバル化へ対応するために必要な能力を身につけ，国際的な視野をもった高度な技術者・研究者を目指す人
3．幅広い分野の知識と高度な専門的知識を自発的に吸収し，自ら課題を探求できる自律的な人

4．さまざまな社会の要求を，倫理観を含めた多角的な視点から捉え，それらを解決することで社会に貢献しようと考えている人

（ICTスペシャリスト育成コース）

本コースでは，知識基盤社会における地域発展を支えるために，ICT（情報通信技術）の深い知見・知識・能力と幅広い知識・教養を備え，地域の自治体や企業，社会において，ICT活用による変革や創造の主導的立場を担うスペシャリストの育成を教育の目標としています。そのために，次のような人を求めています。

1．急速に発展しているICTを学ぶために必要な基礎学力を有し，ICTの専門的スキルと知識の学習，獲得を希望する人
2．多面的な視点から，社会における様々な事物を論ずる能力の習得に意欲のある人
3．実践的なICTスキルと知識を活かし，多面的な視点から，地域，社会に変革をもたらし，人類の幸福や社会に貢献しようとする意欲のある人

〔数理物質科学専攻〕

（数理科学コース）

1．（学識の基盤）
数学や情報科学を専門的に学ぶために必要な学士課程レベルの基礎学力を有する。
2．（論理的思考力）
数学や情報科学に関する基礎的な事項について論証し，課題解決へのプロセスを論理的に説明することができる。
3．（科学に生きる意志）
数学や情報科学に強い興味を持ち，専門知識の習得を通して社会に貢献したいという熱意がある。

（物理科学コース）

1．（学識の基礎）
学士課程で自然科学の基礎を学び，その学理をより深く修めるための用意が十分にできている。
2．（基礎的研究活動力）
研究活動を行うための強い動機と基礎的技能をもっている。
3．（科学に生きる意志）
物理学に強い興味を持ち，専門知識の習得を通して社会に貢献したいという熱意がある。

（地球進化学コース）

1．（学識の基礎）
地球の進化や歴史に強い関心を持っており，地質学的，あるいは，地球物理学的な手段でそれらを明らかにするための学士課程レベルの基礎学力を備えている。
2．（基礎的研究活動力）
野外調査，実験，モデリング，シミュレーション等の多様な研究手法を複合的に用い，自ら課題の発掘と探求を行う基礎的技能を持っている。
3．（科学に生きる意志）
自然環境問題や資源の確保，自然災害の軽減といった身近な社会問題の解決に貢献したいという意欲を持っている。

〔環境機能科学専攻〕

（分子科学コース）

１．（学識の基礎）

学士課程レベルの専門科目としての化学とその周辺の自然科学分野の基礎学識を有しており，その学理をより深く修めるための用意が十分にできている。

２．（基礎的研究活動力）

化学分野において科学的原理に基づいた研究活動を行うための基礎的技能を備えている。

３．（科学に生きる意志）

理学をさらに深く修めて科学研究者，科学技術者，または高度専門職業人として立身し，社会，文化，地球環境保全のために科学・科学技術を役立てたいと志している。

（生物環境科学コース）

１．（学識の基礎）

生命現象や地球環境に関する学士課程レベルの基礎学識を有しており，その学理をより深く修めるための用意が十分にできている。

２．（基礎的研究活動力）

科学的原理や論理的思考に基づいて研究活動を行うための基礎的技能をもっている。
実験や観察などを通して新たな知見や法則性を導き出すことに強い関心がある。
学術情報の取得や発信のために必要な語学の技能を有している。

３．（科学に生きる意志）

生命現象や地球環境に関する理論や原理をさらに深く修めて，科学研究者，科学技術者，または高度専門職業人として立身し，社会，文化，地球環境保全のために科学・科学技術を役立てたいと志している。

2　募集人員

	専　　攻	教育コース	講　　座	募集人員
工学系	生産環境工学専攻	機械工学コース	機　械　工　学	若干人
		環境建設工学コース	環　境　建　設　工　学	若干人
		船舶工学特別コース	船　舶　工　学	（若干人）
	物質生命工学専攻	機能材料工学コース	機　能　材　料　工　学	若干人
		応用化学コース	応　用　化　学	若干人
	電子情報工学専攻	電気電子工学コース	電　気　電　子　工　学	若干人
		情報工学コース	情　報　工　学	若干人
		ICTスペシャリスト育成コース	ICTスペシャリスト育成	若干人
理学系	数理物質科学専攻	数理科学コース	数　理　科　学	若干人
		物理科学コース	物　理　科　学	若干人
		地球進化学コース	地　球　進　化　学	若干人
	環境機能科学専攻	分子科学コース	分　子　科　学	若干人
		生物環境科学コース	生　物　環　境　科　学	若干人

※工学系募集人員には，推薦入学特別選抜Ⅱ（船舶工学特別コース，ICTスペシャリスト育成コースを除く各コース，若干人），社会人選抜（各コース，若干人）を含みます。なお，船舶工学特別コース（若干人）は機械工学コース及び環境建設工学コース募集人員に含みます。なお，機能材料工学コースの一般選抜は実施しません。
※理学系募集人員は，自己推薦入学特別選抜，推薦入学特別選抜Ⅱ，社会人特別選抜併せて全コース若干人です。なお理学系の一般選抜は実施しません。
※上記の募集人員の他に，外国人留学生若干人を受け入れます。
※機械工学コース及び環境建設工学コースを第一志望とした場合，船舶工学特別コースを第二志望とすることができます。電気電子工学コース又は情報工学コースを第一志望とした場合，ICTスペシャリスト育成コースを第二志望とすることができます。ICTスペシャリスト育成コースを第一志望とした場合，電気電子工学コース又は情報工学コースを第二志望とすることができます。なお，他のコースについては併願ができませんので注意してください。

３　一般選抜

（１）出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先

出　願　期　間	**平成29年１月16日（月）～１月20日（金）** （注）出願書類等を持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**１月20日（金）までに必着**とします。
入学者選抜試験日	**平成29年２月14日（火），15日（水）**
合　格　者　発　表	**平成29年３月７日（火）10時** 〈工学系〉**工学部本館玄関前** に受験番号で合格者を発表するとともに，合格通知書を送付します。 なお，電話による合否の照会には応じません。
入学手続期間	**平成29年３月10日（金）～15日（水）** （土曜日，日曜日を除く）
出願書類等提出先	〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9697

（２）出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

① 大学を卒業した者及び平成29年３月までに卒業見込みの者

② 学校教育法第104条第４項の規定により大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成29年３月までに授与される見込みの者

③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者

④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者

⑤ 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者

⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年３月までに授与される見込みの者

⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者

⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）

⑨　学校教育法第102条第２項の規定により他の大学院に入学した者であって，当該者をその後本学大学院に入学させる場合において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

⑩　本学大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，平成29年３月までに22歳に達するもの

⑪　平成29年３月までに次のいずれかに該当する者であって，本学大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

１）大学に３年以上在学した者

２）外国において学校教育における15年の課程を修了した者

３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

４）我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

（注）　本学大学院に入学を志願する者で，上記の③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨，⑪に該当するものは，出願の前に，あらかじめ本研究科に申し出てください。
上記の⑩に該当するものは以下の書類を期限までに提出してください。

《「出願資格⑩」に該当する者の事前の入学資格審査》

①　提出書類等

１）入学資格審査調書〔本研究科所定の用紙〕

２）入学資格審査志望理由書〔本研究科所定の用紙〕

３）最終学校の卒業証明書又は修了証明書

４）審査の参考となる資料（論文，特許等）

５）自己のあて先を明記し，82円分の切手を貼った返信用封筒〔資格審査結果の通知用〕

②　提出期限

平成28年12月16日（金）まで

③　提出先

〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課　工学部チーム

〒790-8577　松山市文京町３番　☎089-927-9697

④　入学資格審査

提出された書類によって「入学資格」の審査を行い，平成29年１月16日（月）までに本人へ通知します。

なお，入学資格審査に提出された書類は返還しないので，認定された者は，９ページの出願書類を別途提出してください。

また，入学資格審査結果は，本募集要項に基づいて実施する「平成29年度愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程入学者選抜試験」に限ります。

（３）出願要件

船舶工学特別コースは，上記の出願資格のいずれか一つに該当する者で，かつ12ページ（(6)③出願要件及び合否判定基準）記載の出願要件に該当するTOEICあるいはTOEFL iBTの成績証明書を出願時に提出できる者に限って出願できます。

なお，提出する成績証明書については，９ページの(5)出願書類等でご確認ください。

（4）選抜方法

学力試験及び面接の結果と提出書類によって，合否判定基準に基づき判定します。

	月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
工学系	２月14日(火)	数学(注１)	機械工学コース 環境建設工学コース 船舶工学特別コース 電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	10：00～12：00
		専門基礎科目(注２)	応用化学コース	10：00～12：00
	２月15日(水)	専門科目(注３)	機械工学コース 船舶工学特別コース 電気電子工学コース(注４) 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース(注４)	9：00～12：00
			環境建設工学コース	9：00～10：30
			応用化学コース	9：00～11：00
		面接	機械工学コース 船舶工学特別コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	13：00～
		面接(口頭試問を含む。)	環境建設工学コース	14：00～
		英語	機械工学コース(注５) 環境建設工学コース(注５) 船舶工学特別コース(注５) 応用化学コース(注６) 電気電子工学コース(注５) 情報工学コース(注５) ICTスペシャリスト育成コース(注５)	
	場所	松山市文京町３番　愛媛大学工学部		

（注１）数学の出題範囲は，次のとおり

教育コース	出題範囲
機械工学コース，環境建設工学コース 船舶工学特別コース	微積分，線形代数，微分方程式
電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	微積分，線形代数，微分方程式 複素関数

（注２）応用化学コースの専門基礎科目の出題範囲は，**別表１**（30ページ）のとおり
（注３）各教育コースの専門科目の出題範囲は，**別表２**（30ページ）のとおり
（注４）専門科目において，電気電子工学コース及びICTスペシャリスト育成コース（別表２に記載の試験科目①を選択する場合）は電卓持参のこと（計算機能のみの物）
（注５）機械工学コース，環境建設工学コース，船舶工学特別コース，電気電子工学コース，情報工学コース及びICTスペシャリスト育成コースは，TOEICあるいはTOEFL iBTスコアからの換算点を英語の得点としますので，英語の学力試験を行いません。
（注６）応用化学コースは，TOEICのスコアからの換算点を英語の得点としますので，英語の学力試験を行いません。

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

（5）出願書類等

ア　入学志願票（写真票，受験票）〔本研究科所定の用紙〕
イ　成績証明書〔出身大学（学部）長等が作成し，厳封したもの〕
ウ　卒業証明書又は卒業見込証明書〔出身大学（学部）長等が作成したもの〕
エ　修了証明書又は修了見込証明書〔出願資格③，④，⑤，⑥，⑦に該当する者〕
オ　学位授与証明書又は短期大学長若しくは高等専門学校長が作成した大学評価・学位授与機構へ平成28年10月に学士の学位の授与を申請した者である旨の証明書〔出願資格②に該当する者〕
カ　写真〔出願前３か月以内に撮影した上半身，無帽，正面向きの写真（縦４cm×横３cm）を，写真票に貼ってください。〕
キ　受験許可書〔現に大学院に在学中の者は，その所属長又はこれに準ずる者の受験許可書を提出してください。〕
ク　検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行（他の金融機関からの振込はできません。）の窓口から払込後（ATMは使用しないでください。），日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお，払込済の検定料は，33ページの「11⑶検定料の返還について」の返還請求できる場合を除き，返還しません。
ケ　受験票送付用封筒〔受験票の送付を希望する者は，本研究科所定の封筒にあて名及び郵便番号を記入の上，362円分の切手を貼ってください。〕
コ　**機械工学コース，環境建設工学コース，船舶工学特別コース，電気電子工学コース，情報工学コース，ICTスペシャリスト育成コース**

英語の点数として，TOEICあるいはTOEFL iBTスコアからの換算点を，英語の得点としますので，TOEICあるいはTOEFL iBTの成績証明書の原本とその写し（Ａ４サイズ）を１部提出してください。

成績証明書は，TOEICはOfficial Score Certificate（公式認定証），TOEFL iBTはOfficial Score Report（公式スコア票）とします。

提出できる成績証明書の発行日は，平成26年４月以降とします。

TOEIC IP等の団体特別受験制度による成績証明書は利用できません。

応用化学コース

英語の点数としてTOEICからの換算点を，英語の点数としますので，TOEICの成績証明書の原本とその写し（Ａ４サイズ）を１部提出してください。

成績証明書は，Official Score Certificate（公式認定証）とします。

提出できる成績証明書の発行日は，平成26年４月以降とします。

TOEIC IP等の団体特別受験制度による成績証明書の利用はできません。

《出願資格⑪に該当する者にかかわる出願書類等》

出願資格⑪で，本研究科へ出願しようとする者は，上記の出願書類等と併せて下記の書類を提出期限までに提出してください。なお，出願書類等のうち「卒業証明書又は卒業見込証明書」については，提出の必要はありません。

① 提出書類

推　薦　書	出身大学において作成し，厳封したもの〔本研究科所定の用紙〕
成績証明書	出身大学において作成し，厳封したもの 必修科目が明記され，３年次に修得見込みの科目名及びその単位数が記載されたもの
出願者の所属する学科等の教育課程表	出願者が所属する学科等の開講科目についての講義内容等が詳細に記載されたもの

② 提出期限

平成28年12月16日（金）まで

なお，持参する場合は，平日の午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**12月16日（金）までに必着**とします。

③ 提出先

〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム

〒790-8577　松山市文京町３番　☎089-927-9697

④ その他の提出書類

出願資格⑪で学力試験の合格者と認められた者は，**平成29年３月３日（金）まで**に３年次の修得科目も含めた成績証明書を提出してください。

なお，受験者の最終の合格者発表は，平成29年３月中旬に行います。

（6）配点，採点・評価基準，出願要件及び合否判定基準

① 配点

〈工学系〉

教育コース	数学	英語	専門科目	計
機械工学コース 環境建設工学コース 電気電子工学コース 情報工学コース	100	100	200	400
ICTスペシャリスト育成コース	50	100	250	

面接及び成績証明書はＡＢＣで評価し，合否判定の資料とします。

英語については，TOEICあるいはTOEFL　iBTスコアからの換算点を英語の得点とします。なお，TOEICあるいはTOEFL iBTのスコアは，以下の換算法にしたがって換算します。ただし，換算点が100点を超える場合は100点とします。

TOEICの場合　　［換算点］＝［TOEICスコア］／７

TOEFL iBTの場合　［換算点］＝1.21×［TOEFL iBTスコア］＋８

教育コース	数学	英語	専門科目	計
船舶工学特別コース	100	100	200	400

面接はＡＢＣで評価し，合否判定の資料とします。

英語については，TOEICあるいはTOEFL　iBTスコアからの換算点を英語の得点とします。なお，TOEICあるいはTOEFL iBTのスコアは，以下の換算法にしたがって換算します。ただし，換算点が100点を超える場合は100点とします。

TOEICの場合　　［換算点］＝［TOEICスコア］／７

TOEFL iBTの場合　［換算点］＝1.21×［TOEFL iBTスコア］＋８

教育コース	専門基礎科目	英語	専門科目	計
応用化学コース	150	100	100	350

面接及び成績証明書はＡＢＣで評価し，合否判定の資料とします。

英語については，TOEICのスコアからの換算点を英語の得点とします。

なお，TOEICのスコアは，以下の換算法にしたがって換算します。ただし，換算点が100点を超える場合は100点とします。

TOEIC　［換算点］＝0.19×［TOEICスコア］－33

② 採点・評価基準

	教育コース	科　目　等	採点・評価基準（一般的基準）
工学系	機械工学コース 電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	数　学	一般的学力をみます。
		英　語	一般的学力をみます。
		専門科目	専門的学力をみます。
		成績証明書	専門的学力をみます。
		面　接	目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。
	環境建設工学コース	数　学	一般的学力をみます。
		英　語	一般的学力をみます。
		専門科目	専門的学力をみます。
		成績証明書	専門的学力をみます。
		面　接 （口頭試問を含む。）	目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。 口頭試問については，基礎学力をみます。
	船舶工学特別コース	数　学	一般的学力をみます。
		英　語	一般的学力をみます。
		専門科目	専門的学力をみます。
		面　接	目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。
	応用化学コース	専門基礎科目	専門の基礎となる３科目の基礎的学力をみます。
		英　語	一般的学力をみます。
		専門科目	専門的学力をみます。
		成績証明書	専門的学力をみます。
		面　接	目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。

③　出願要件及び合否判定基準

	教育コース	出願要件*及び判定基準	同点者の順位決定方法
工学系	機械工学コース 電気電子工学コース	学力試験の得点，面接及び成績証明書で合否を判定します。 ただし，面接の評価がCの場合は不合格とします。	同点者は同順位とします。
	環境建設工学コース	学力試験の得点及び面接の得点で合否を判定します。 ただし，次のいずれかに該当する場合は不合格とします。 (1)数学，英語及び専門科目の得点の合計が1/2未満，(2)面接(口頭試問を含む。)の評価がC，(3)成績証明書の評価がC	
	船舶工学特別コース	**英語の換算得点が1/3以上を出願要件とします。** また，学力試験の得点及び面接で合否を判定します。 ただし，次のいずれかに該当する場合は不合格とします。 (1)数学の得点が1/3未満，(2)専門科目の得点が1/3未満，(3)数学，英語及び専門科目の得点の合計が1/2未満，(4)面接の評価がC	
	情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	学力試験の得点，面接及び成績証明書で合否を判定します。 ただし，次のいずれかに該当する場合は不合格とします。 (1)面接の評価がC，(2)成績証明書の評価がC	
	応用化学コース	学力試験の得点，面接及び成績証明書で合否を判定します。 ただし，次のいずれかに該当する場合は不合格とします。 (1)英語，専門基礎科目及び専門科目の得点の合計が1/3未満，(2)面接の評価がC，(3) 成績証明書の評価がC	

＊出願要件は，７ページ(３)出願要件に記載のとおり，船舶工学特別コース出願者のみが該当します。

４　自己推薦入学特別選抜（理学系）

（１）出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先

出　願　期　間	**平成29年１月16日(月)～１月20日(金)** （注）出願書類等を持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**１月20日(金)までに必着**とします。
入学者選抜試験日	**平成29年２月15日(水)**
合　格　者　発　表	**平成29年３月７日(火)10時** **理学部本館前掲示板** に受験番号で合格者を発表するとともに，合格通知書を送付します。 なお，電話による合否の照会には応じません。
入学手続期間	**平成29年３月10日(金)～15日(水)**（土日を除く）
出願書類等提出先	愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9546

（２）出願資格

① 大学を卒業した者及び平成29年３月までに卒業見込みの者
② 学校教育法第104条第４項の規定により大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成29年３月までに授与される見込みの者
③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者
④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者
⑤ 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者
⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者
⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者
⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）

⑨　学校教育法第102条第２項の規定により他の大学院に入学した者であって，当該者をその後本学大学院に入学させる場合において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

⑩　本学大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，平成29年３月までに22歳に達するもの

⑪　平成29年３月までに次のいずれかに該当する者であって，本学大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

１）大学に３年以上在学した者
２）外国において学校教育における15年の課程を修了した者
３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
４）我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

（注）　本学大学院に入学を志願する者で，上記の③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑪に該当するものは，出願の前に，あらかじめ本研究科に申し出てください。
上記の⑩に該当する者は以下の書類を期限までに提出してください。

《「出願資格⑩」に該当する者の事前の入学資格審査》

①　提出書類等
１）入学資格審査調書〔本研究科所定の用紙〕
２）入学資格審査志望理由書〔本研究科所定の用紙〕
３）最終学校の卒業証明書又は修了証明書
４）審査の参考となる資料（論文，特許等）
５）自己のあて先を明記し，82円分の切手を貼った返信用封筒〔資格審査結果の通知用〕

②　提出期限
平成28年12月16日（金）まで

③　提出先
愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム
〒790-8577　松山市文京町３番　☎089-927-9546

④　入学資格審査
提出された書類によって「入学資格」の審査を行い，平成29年１月16日（月）までに本人へ通知します。
なお，入学資格審査に提出された書類は返還しないので，認定された者は，15ページの出願書類等を別途提出してください。
また，入学資格審査結果は，本募集要項に基づいて実施する「平成29年度愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程入学者選抜試験」に限ります。

（注）　志願者は，平成28年12月５日（月）～12月16日（金）（土日を除く）の間に，必ず教育支援課理学部チーム（☎089-927-9546）に連絡してください。

（3）選抜方法

志願調書，成績証明書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して判定します。

月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
２月15日(水)	面接（口頭試問を含む。）	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	９：00～
場所	松山市文京町２番５号　愛媛大学理学部		

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

（4）出願書類等

ア　入学志願票（写真票，受験票）〔本研究科所定の用紙〕
イ　成績証明書〔出身大学（学部）長等が作成し，厳封したもの〕
ウ　卒業証明書又は卒業見込証明書
エ　修了証明書又は修了見込証明書〔出願資格③，④，⑤，⑥，⑦に該当する者〕
オ　学位授与証明書又は短期大学長又は高等専門学校長が作成した大学改革支援・学位授与機構へ平成28年10月に学士の学位の授与を申請した者である旨の証明書〔出願資格②に該当する者〕
カ　写真〔出願前３か月以内に撮影した上半身，無帽，正面向きの写真（縦４cm×横３cm）を，写真票に貼ってください。〕
キ　受験許可書〔現に大学院に在学中の者は，その所属長又はこれに準ずる者の受験許可書を提出してください。〕
ク　志願調書〔本研究科所定の用紙（自己推薦入学特別選抜）〕
ケ　検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行（他の金融機関からの振込はできません。）の窓口から払込後（ATMは使用しないでください。），日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお，払込済の検定料は，33ページの「11(3)検定料の返還について」の返還請求できる場合を除き，返還しません。
コ　受験票送付用封筒〔受験票の送付を希望する者は，本研究科所定の封筒にあて名及び郵便番号を記入の上，362円分の切手を貼ってください。〕
サ　住民票の写し〔日本の国籍を有しない者のみ提出する。出願時に日本に在住する外国人にあっては，市区町村長発行のもの〕

《出願資格⑪に該当する者にかかわる出願書類等》

出願資格⑪で，本研究科へ出願しようとする者は，上記の出願書類等と併せて下記の書類を提出期限までに提出してください。なお，出願書類等のうち「卒業証明書又は卒業見込証明書」については，提出の必要はありません。

①　提出書類

推薦書	出身大学において作成し，厳封したもの〔本研究科所定の用紙〕
成績証明書	出身大学において作成し，厳封したもの 必修科目が明記され，３年次に修得見込みの科目名及びその単位数も記載されたもの
出身大学の学科等の教育課程表	出身大学の学科等の開講科目についての講義内容等が詳細に記載されたもの

② 提出期限

平成29年１月17日(火)まで

なお，持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も**１月17日(火)までに必着**とします。

③ 提出先

愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム

〒790-8577　松山市文京町３番　☎089-927-9546

④ その他の提出書類

出願資格⑪で学力試験の合格者と認められた者は，**平成29年３月３日(金)まで**に３年次の修得科目も含めた成績証明書を提出してください。

なお，受験者の最終の合格者発表は，平成29年３月中旬に行います。

（5）配点，採点・評価基準，合否判定基準

① 配点

教育コース	面接（口頭試問を含む。）	提出書類	計
数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	100	100	200

② 採点・評価基準

教育コース	教　科　等	採点評価基準（一般的基準）
数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	面接(口頭試問を含む。)	基礎学力，目的意識，勉学意欲，自己表現力等について，総合的に評価します。
	提出書類	学業成績，人物，志望動機等について総合的に評価します。

③ 合否判定基準

教育コース	判　定　基　準	同点者の順位決定方法
数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	総合点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。

５　推薦入学特別選抜Ⅱ（博士後期課程進学コース）

本研究科では，志望する教育コースの専門分野と異なる学科等から大学院への進学を希望し，将来，博士後期課程への進学を希望する学生を受け入れるために，推薦入学特別選抜Ⅱ（博士後期課程進学コース）の入学者選抜試験を実施します。カリキュラムについては学生の学習履歴に配慮し，他教育コースの単位を多く履修できるよう弾力化しています。

なお，出願に際しては，出願書類等の提出先に問い合わせてください。

（１）出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先

出　願　期　間	**平成29年１月16日(月)～１月20日(金)** （注）出願書類等を持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**１月20日(金)までに必着**とします。
入学者選抜試験日	**平成29年２月15日(水)**
合　格　者　発　表	**平成29年３月７日(火)10時** 〈工学系〉**工学部本館玄関前** 〈理学系〉**理学部本館玄関前** に受験番号で合格者を発表するとともに，合格通知書を送付します。 なお，電話による合否の照会には応じません。
入学手続期間	**平成29年３月10日(金)～15日(水)** （土曜日，日曜日を除く）
出願書類等提出先	〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9697 〈理学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9546

（２）出願資格

次の⑴，⑵のいずれかに該当し，志望する教育コースの専門分野と異なる学科等から進学を希望し，かつ博士後期課程への進学を希望する者であって，本研究科後期課程の研究指導教員の指導予定教員から推薦を受けたもの

⑴　大学を平成29年３月卒業見込みの者

⑵　短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科に在籍し，当該専攻科を平成29年３月に修了見込みの者で，学校教育法第104条第４項の規定により，平成29年３月までに大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みのもの

（３）選抜方法

面接（口頭試問を含む。），推薦書及び成績証明書を総合して判定します。

月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
２月15日（水）	面接（口頭試問を含む。）	〈工学系〉 機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース 〈理学系〉 数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	９：00～
場所	〈工学系〉 松山市文京町３番　愛媛大学工学部 〈理学系〉 松山市文京町２番５号　愛媛大学理学部		

（注）　面接についての詳細は，試験当日に指示します。

①　配点

教育コース	面接(口頭試問を含む。)	推薦書，成績証明書	計
〈工学系〉 機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース 〈理学系〉 数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	100	100	200

② 採点・評価基準

教育コース	教　科　等	採点評価基準（一般的基準）
〈工学系〉 機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース 〈理学系〉 数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	面接（口頭試問を含む。）	基礎学力，目的意識，勉学意欲，自己表現力などについて，総合的に評価します。
	推薦書，成績証明書	学業成績，人物，志望動機などについて，総合的に評価します。

③ 合否判定基準

教育コース	判　定　基　準	同点者の順位決定方法
〈工学系〉 機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース 〈理学系〉 数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	総合点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。

（4）出願書類等

出　願　書　類　等	摘　　要
入学志願票（写真票，受験票）	本研究科所定のもの
成績証明書	出身大学（学部）長等が作成し，厳封したもの
卒業(修了)見込証明書	出身大学（学部）長等が作成したもの
学士の学位授与申請予定証明書	出願資格(2)の者 短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科の学位取得見込者で学(校)長の証明する学位授与申請予定証明書
推薦書（推薦入学特別選抜Ⅱ）	本研究科所定のもので，厳封したもの
検定料払込証明書	検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行（他の金融機関からの振込はできません。）の窓口から払込後（ATMは使用しないでください。），日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお，払込済の検定料は，33ページの「11(3)検定料の返還について」の返還請求できる場合を除き，返還しません。
写真	出願前３か月以内に撮影した上半身，無帽，正面向きの写真（縦４cm×横３cm，白黒又はカラー）を，写真票に貼ってください。
受験票送付用封筒	受験票の郵送を希望する者は，あて先を明記し，362円分の切手（速達）を貼って提出してください。

６　社会人選抜

（１）出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先

出　願　期　間	**平成29年１月16日(月)～１月20日(金)** (注) 出願書類等を持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**１月20日(金)までに必着**とします。
入学者選抜試験日	**平成29年２月15日(水)**
合　格　者　発　表	**平成29年３月７日(火)10時** 〈工学系〉**工学部本館玄関前** 〈理学系〉**理学部本館玄関前** に受験番号で合格者を発表するとともに，合格通知書を送付します。 なお，電話による合否の照会には応じません。
入学手続期間	**平成29年３月10日(金)～３月15日(水)** (土曜日，日曜日を除く)
出願書類等提出先	〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9697 〈理学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9546

（２）出願資格

一般選抜のいずれかの出願資格を有し，かつ社会人技術者等であって，同一の研究機関，教育機関，企業等に，正規職員として入学予定年月までに１年以上の勤務経験を有し，勤務成績が優秀であると所属長又はこれに準ずる者から推薦を受けた者

ただし，船舶工学特別コース及びICTスペシャリスト育成コースは以下の企業等に２年以上の勤務経験を必要とする。

(船舶工学特別コース)

造船関連の研究機関，教育機関，企業等

(ICTスペシャリスト育成コース)

同一の研究機関，教育機関，企業等

（3）選抜方法

面接の結果と提出書類によって，合否判定基準に基づき判定します。

	月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
工学系	２月15日(水)	面接 (口頭試問を含む。)	機械工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	13：00～
		面接 (口頭試問を含む。)	環境建設工学コース	14：00～
		面接	船舶工学特別コース 機能材料工学コース	13：00～
	場所	松山市文京町３番　愛媛大学工学部		

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

	月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
理学系	２月15日(水)	面接 (口頭試問を含む。)	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	９：00～
	場所	松山市文京町２番５号　愛媛大学理学部		

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

（4）出願書類等

ア　入学志願票（写真票，受験票）〔本研究科所定の用紙〕
イ　成績証明書〔出身大学（学部）長等が作成し，厳封したもの〕
ウ　卒業証明書又は卒業見込証明書〔出身大学（学部）長等が作成したもの〕
エ　写真〔出願前３か月以内に撮影した上半身，無帽，正面向きの写真（縦４㎝×横３㎝）を，写真票に貼ってください。〕
オ　受験許可書〔社会人選抜志願者は，その所属長又はこれに準ずる者の受験許可書を提出してください。〕
カ　検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行（他の金融機関からの振込はできません。）の窓口から払込後（ATMは使用しないでください。），日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお，払込済の検定料は，33ページの「11(3)検定料の返還について」の返還請求できる場合を除き，返還しません。
キ　受験票送付用封筒〔受験票の送付を希望する者は，本研究科所定の封筒にあて名及び郵便番号を記入の上，362円分の切手を貼ってください。〕
ク　志望理由書〔本研究科に入学し，勉学，研究を行いたいと考えた動機及び目的を1,000字以内で記入してください。様式随意〕
ケ　研究活動調書〔本研究科所定の用紙に職務内容，社会における研究活動状況を示すものを記入してください。〕
コ　**船舶工学特別コース**

面接時の参考資料として，TOEIC等の英語外部試験の成績証明書の原本とその写しを１部提出してください。

成績証明書はTOEICのOfficial Score Certificate（公式認定証），TOEIC IPのScore Report（個人成績表），TOEFL iBTのOfficial Score Report（公式スコア票），TOEFL PBTのExaminee Score Report（受験者用スコア票），TOEFL ITP Level 1のScore Report（個人スコア票）とします。

提出できる成績証明書の発行日は，平成26年４月以降とします。

サ　**電気電子工学コース，情報工学コース，ICTスペシャリスト育成コース**

電子情報工学分野に関連するものに限らず，語学や業務に関係する資格や能力認定評価をお持ちの方は，それを証明する書類を提出してください。

（5）配点，採点・評価基準，合否判定基準

① 配点

〈工学系〉

教育コース	面接(口頭試問を含む。)	計
機械工学コース 環境建設工学コース	100	100

教育コース	面接	計
船舶工学特別コース	100	100

英語外部試験の成績証明書は面接の際の参考資料とします。

教育コース	面接	計
機能材料工学コース	100	100

教育コース	面接(口頭試問を含む。)	計
応用化学コース	100	100

電気電子工学コース，情報工学コース，ICTスペシャリスト育成コース

面接（口頭試問を含む。）はＡＢＣで評価します。

電子情報工学分野に関連するものに限らず，語学や業務に関係する資格や能力認定評価を証明する資料を，面接の際の参考資料とします。

〈理学系〉

教育コース	面接(口頭試問を含む。)	提出書類	計
数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	100	100	200

② 採点・評価基準

	教育コース	科 目 等	採点・評価基準（一般的基準）
工学系	機械工学コース 電気電子工学コース 情報工学コース ICTスペシャリスト育成コース	面接（口頭試問を含む。）	目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。 口頭試問については，基礎学力をみます。
	環境建設工学コース	面接（口頭試問を含む。	志望理由書，研究活動調書の内容を含めた目的意識，勉学意欲，基礎学力，自己表現力をみます。 口頭試問については，基礎学力（英語含む）をみます。
	船舶工学特別コース	面 接	志望理由書，研究活動調書，英語参考資料の内容を含めた目的意識，勉学意欲，自己表現力，英語基礎学力をみます。
	機能材料工学コース	面 接	志望理由書，研究活動調書の内容を含めた目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。
	応用化学コース	面接（口頭試問を含む。）	志望理由書，研究活動調書の内容を含めた目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。
理学系	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	面接（口頭試問を含む。）	基礎学力，目的意識，勉学意欲，自己表現力等について，総合的に評価します。
		提 出 書 類	学業成績，人物，志望動機等について総合的に評価します。

③　合否判定基準

	教育コース	判　定　基　準	同点者の順位決定方法
工学系	機械工学コース	面接（口頭試問を含む。）の得点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。
	環境建設工学コース	面接（口頭試問を含む。）の得点で合否を判定します。ただし，面接（口頭試問を含む。）の得点が1/3未満の場合は不合格とします。	同点者は同順位とします。
	船舶工学特別コース	面接の得点で合否を判定します。ただし，面接の得点が1/3未満の場合は不合格とします。	同点者は同順位とします。
	機能材料工学コース	面接の得点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。
	応用化学コース	面接（口頭試問を含む。）の得点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。
	電気電子工学コース 情報工学コース	面接（口頭試問を含む。）の結果で合否を判定します。	
	ICTスペシャリスト育成コース	面接（口頭試問を含む。）の結果がＡまたはＢである者を合格とします。	
理学系	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	総合得点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。

（6）大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について

大学院設置基準第14条では，「大学院の課程においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており，社会人等の就学に配慮がなされています。

本学大学院理工学研究科博士前期課程では，同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者等に対し，実施しています。

概要は，次のとおりです。

○　特例適用の対象となる学生は，あらかじめ指導教員に特例の適用を申し出て，履修計画を作成してください。

○　１年次は，通常の授業時間帯で30単位のうち20単位以上を修得します。２年次は，特例による履修で必要な単位を修得することができます。

7　外国人留学生選抜

（1）出願期間，入学者選抜試験日等及び出願書類等提出先

出　願　期　間	**平成29年１月16日(月)～１月20日(金)** （注）出願書類等を持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**１月20日(金)までに必着**とします。
入学者選抜試験日	**平成29年２月15日(水)**
合　格　者　発　表	**平成29年３月７日(火)10時** 〈工学系〉**工学部本館玄関前** 〈理学系〉**理学部本館玄関前** に受験番号で合格者を発表するとともに，合格通知書を送付します。 なお，電話による合否の照会には応じません。
入学手続期間	**平成29年３月10日(金)～15日(水)** （土曜日，日曜日を除く）
出願書類等提出先	〈工学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9697 〈理学系〉愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 理学部チーム 〒790-8577　松山市文京町３番 TEL 089-927-9546

（2）出願資格

日本の国籍を有しない者で，次のいずれかの条件を満たしているものとします。但し，出入国管理及び難民認定法に定めるところにより，「留学」の在留資格を有する者，又は取得見込みの者に限ります。

① 大学を卒業した者及び平成29年３月までに卒業見込みの者

② 外国において，学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年３月までに修了見込みの者

③ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が３年以上である課程を修了することにより，学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年３月までに授与される見込みの者

④ 外国において，学校教育における15年の課程を修了し，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者

⑤ 本学大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，平成29年３月までに22歳に達するもの

（注）本学大学院に入学を志望する者で，上記の各号に該当するものは，出願の前（上記の④，⑤に該当するものは，平成28年12月９日（金）まで）に，あらかじめ本研究科に申し出てください。なお，以下の書類を期限までに提出してください。

《「出願資格④」に該当する者にかかわる出願書類等》

出願資格④で，本研究科へ出願しようとする者は，28ページの出願書類等と併せて下記の書類を提出期限までに出願書類等提出先（26ページ）に提出してください。なお，出願書類のうち「卒業証書又は卒業見込証明書」については，提出の必要はありません。

① 提出書類

推　薦　書	出身大学において作成し，厳封したもの〔本研究科所定の用紙〕
成績証明書	出身大学において作成し，厳封したもの 必修科目が明記され，３年次までに修得済みの科目名及びその単位数が記載されたもの
出願者の所属する学科等の教育課程表	出願者が所属する学科等の開講科目についての講義内容等が詳細に記載されたもの

② 提出期限

平成28年12月16日(金)まで

なお，持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**平成28年12月16日(金)までに必着**とします。

《「出願資格⑤」に該当する者の事前の入学資格審査》

出願資格⑤で，本研究科へ出願しようとするものは，下記の書類を提出期限までに出願書類等提出先（26ページ）に提出してください。なお，封筒の表に「博士前期課程入学資格審査書類在中」と朱書してください。

① 提出書類等

１）入学資格審査調書
２）入学資格審査志望理由書
３）最終学校の卒業証明書又は修了証明書
４）審査の参考となる資料（論文，特許等）
５）自己のあて先を明記し，82円分の切手を貼った返信用封筒〔資格審査結果の通知用〕

② 提出期限

平成28年12月16日(金)まで

なお，持参する場合は，午前９時から午後５時までとし，郵送の場合も，**平成28年12月16日(金)までに必着**とします。

③ 入学資格審査

提出された書類によって「入学資格」の審査を行い，その結果を平成29年１月16日(月)までに本人へ通知します。

なお，入学資格審査に提出された書類は返還しないので，認定された者は，28ページの出願書類を別途提出してください。

また，入学資格審査結果は，本募集要項に基づいて実施する「平成29年度愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程入学者選抜試験」に限ります。

（3）選抜方法

面接及び提出書類によって，合否判定基準に基づき判定します。

	月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
工学系	２月15日(水)	面接 （口頭試問を含む。）	機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース（注１） 情報工学コース	13：00～
	場所	松山市文京町３番　愛媛大学工学部		
（注１）環境建設工学コース，電気電子工学コースを志願する者は，12月１日(木)～12月９日(金)の間に，必ず各コース長に相談してください。 〈連絡先〉環境建設工学コース長：yatabe.ryuichi.mu@ehime-u.ac.jp 電気電子工学コース長：okamoto.yoshihiro.mj@ehime-u.ac.jp				

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

月日（曜）	学力試験科目等	教育コース	時間
２月15日(水)	面接（口頭試問を含む。）	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	９：00～
場所	松山市文京町２番５号　愛媛大学理学部		

（注）　面接の詳細は，試験当日に指示します。

（4）出願書類等

ア　入学志願票（写真票，受験票）〔本研究科所定の用紙〕
イ　成績証明書〔出身大学（学部）長等が作成し，厳封したもの〕
ウ　卒業証明書又は卒業見込証明書〔出身大学（学部）長等が作成したもの〕
エ　写真〔出願前３か月以内に撮影した上半身，無帽，正面向きの写真（縦４cm×横３cm）を，写真票に貼ってください。〕
オ　検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行（他の金融機関からの振込はできません。）の窓口から払込後（ATMは使用しないでください。），日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお，払込済の検定料は，33ページの「11(3)検定料の返還について」の返還請求できる場合を除き，返還しません。
カ　受験票送付用封筒〔受験票の送付を希望する者は，本研究科所定の封筒にあて名及び郵便番号を記入の上，362円分の切手を貼ってください。〕
キ　住民票の写し〔出願時に日本に在住する外国人にあっては，市区町村長発行のもの〕

（5）配点，採点・評価基準，合否判定基準

① 配点

〈工学系〉

教育コース	面接（口頭試問を含む。）	計
機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース	100	100

成績証明書はＡＢＣで評価し，合否判定の資料とします。

〈理学系〉

教育コース	面接（口頭試問を含む。）	提出書類	計
数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	100	100	200

② 採点・評価基準

	教育コース	科　目　等	採点・評価基準（一般的基準）
工学系	機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース	成績証明書	専門的学力をみます。
		面接（口頭試問を含む。）	基礎学力，目的意識，勉学意欲，自己表現力をみます。
理学系	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	面接（口頭試問を含む。）	基礎学力，目的意識，勉学意欲，自己表現力等について，総合的に評価します。
		提出書類	学業成績，人物等について総合的に評価します。

③　合否判定基準

	教育コース	判　定　基　準	同点者の順位決定方法
工学系	機械工学コース 環境建設工学コース 機能材料工学コース 応用化学コース 電気電子工学コース 情報工学コース	面接（口頭試問を含む。）の得点及び成績証明書で合否を判定します。 ただし，次のいずれかに該当する場合は不合格とします。 (1)面接（口頭試問を含む。）の得点が１/３未満，(2)成績証明書の評価がＣ	同点者は同順位とします。

	教育コース	判　定　基　準	同点者の順位決定方法
理学系	数理科学コース 物理科学コース 地球進化学コース 分子科学コース 生物環境科学コース	総合点で合否を判定します。	同点者は同順位とします。

別表１

専門基礎科目の試験科目

教育コース	試験科目等	備　　考
応用化学コース	基礎化学	全問を必須解答する。試験範囲は，無機・分析化学，物理化学，有機化学のうち，以下に示す事項に関連する範囲とする。 原子の構造，分子の構造，化学結合，酸と塩基，共鳴，官能基とその性質，立体化学，アルケン・アルキンの性質と反応，有機化合物の基本反応，酸塩基平衡，キレート，沈殿，気体の状態方程式，熱力学の第１～第３法則，物理平衡と化学平衡，理想溶液

別表２

専門科目の試験科目

教育コース	試験科目等	備　　考
機械工学コース	力学 機械力学 材料力学 熱力学 流体力学 制御工学	左記の６科目のうち３科目を選択解答とする。 各試験科目の試験範囲は以下のとおりとする。 力学：質点の力学，質点系の力学，剛体の力学 機械力学：１自由度系の振動，２自由度系の振動，ラグランジュの方程式，多自由度系の振動 材料力学：応力とひずみ，引張りと圧縮，はりの曲げ応力とたわみ，ねじり，組合せ応力，柱の座屈，ひずみエネルギー 熱力学：熱力学第１法則・第２法則，状態量，理想気体，状態変化，蒸気，熱力学の一般関係式，サイクル，一次元流れ，熱機関，冷凍 流体力学：流体の特性と流れの基礎，流体静力学，基礎的な流体動力学，管内の流れ，物体まわりの流れ，理想流体の流れ 制御工学：制御系の表現（伝達関数，ブロック線図），過渡応答（インパルス応答，ステップ応答），周波数応答（ベクトル軌跡，ボード線図，ゲイン位相線図），制御系の性能（安定度についての目安，速応性についての目安，定常特性），制御系の補償（ゲイン調整のみ）
環境建設工学コース	小論文	社会資本整備に関して出題する。

教育コース	試 験 科 目 等	備　　考
船舶工学特別コース	①力学 機械力学 材料力学 熱力学 流体力学 制御工学 ②小論文	①の科目群又は②小論文から選択解答する。 ①の科目群では，３科目を選択解答する。 ②小論文は，社会資本整備に関して出題する。
応用化学コース	無機・分析化学 物理化学 有機化学 高分子化学 生物化学 化学工学	左記の６科目より各２題（計12題）出題される問題から，専門科目の試験時間に２題を選択して解答する。各試験科目の試験範囲は以下のとおりとする。 無機化学：専門基礎科目の範囲及び元素各論，無機化合物の構造と性質，配位化学・配位子場理論 分析化学：溶媒抽出，クロマトグラフィー，分光分析 物理化学：電気化学の基礎，量子化学の基礎，固体化学の基礎，反応速度論 有機化学：有機化合物の性質及び反応，有機化合物の合成，反応機構，機器分析 高分子化学：縮合重合と重付加，ラジカル重合，イオン重合，開環重合，高分子反応，付加縮合，孤立高分子の性質，高分子液体，高分子固体 生物化学：化学平衡，酵素反応速度論，活性化エネルギー，糖，アミノ酸，脂質の化学，タンパク質，核酸の化学，糖代謝，脂質代謝，ビタミンの作用機作，酵素阻害と活性調節，遺伝子複製機構，RNA合成とその制御，タンパク質合成とその制御，ホルモン作用機作，遺伝子工学 化学工学：流動操作，熱移動操作，膜分離，機械的分離操作，蒸留，ガス吸収，液液抽出，晶析，吸着，調湿，乾燥
電気電子工学コース	電気回路 電磁気学	左記の２科目必須。出題範囲は以下のとおりとする。 電気回路：一般線形回路理論，基本諸定理，二端子対回路，１階及び２階微分方程式で表される回路の過渡解析，ラプラス変換による過渡解析，アナログ電子回路（ただし，ダイオード及びバイポーラトランジスタを含む回路に限る。） 電磁気学：静電界，定常電流，静磁界，電磁誘導，マクスウェルの方程式

教育コース	試 験 科 目 等	備　　考
情報工学コース	情報数学 情報理論 ソフトウェア 計算機システム オペレーティングシステム	左記の５科目必須。出題範囲は以下のとおりとする。 情報数学：集合，写像，関係，代数構造，順序構造，グラフ 情報理論：情報量，符号化，通信路容量，ハミング距離 ソフトウェア：データ構造，アルゴリズム，計算量 計算機システム：ブール代数，論理回路，計算機アーキテクチャ オペレーティングシステム：プロセス管理，メモリ管理，ファイルシステム
ICTスペシャリスト育成コース	①電気回路 　電磁気学 ②情報数学 　情報理論 　ソフトウェア 　計算機システム 　オペレーティングシステム	①又は②を選択解答する。 ただし，第二志望コースでの合否判定を希望する場合は， 電気電子工学コースを第二志望とする者は①を，情報工学コースを第二志望とする者は②を選択すること。 ①の出題範囲は電気電子工学コースと同じ。 ②の出題範囲は情報工学コースと同じ。

8　障がい等を有する入学志願者の事前相談

障がい等を有する入学志願者で，受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は，出願の前に，あらかじめ出願書類等提出先（17ページを参照）に次のとおり相談してください。

(1)　相談の期限

原則として平成29年１月６日(金)まで

なお，体幹及び両上下肢の機能障がいが著しい者で，代筆解答を希望するものは，できるだけ早い時期に相談してください。

(2)　相談の方法

相談申込書（様式任意）の提出により行います。必要な場合は，志願者との面談等を行います。

(3)　相談に必要な書類等

①　相談申込書（様式任意）

相談申込書は，志願者の氏名，住所，電話番号，出身学校名，志願コース，障がい等の状況，受験上及び修学上の配慮を希望する事項等，出身学校における学習上の配慮及び生活状況等について記載してください。

②　医師の診断書等

医師の診断書（写しでも可）又は身体障害者手帳の写しなどで障がい等の状況が確認できるものを添付してください。

9　入学手続

(1)　入学手続に必要なもの

①　入学料……282,000円

②　本研究科所定の入学手続書類

(2)　入学手続期間

平成29年３月10日(金)～15日(水)（土曜日，日曜日を除く）

持参する場合は上記期間の午前９時～午後５時までとします。

10　初年度の学費・諸経費等

(1)　学費

入学料……282,000円（入学手続時に，納入します。）

授業料……前期分267,900円，後期分267,900円【年間535,800円】

※入学料及び授業料の額は，平成28年度納付額であり，平成29年度は改定になる場合があります。

(2)　諸経費

後援会費……10,000円

校友会費……20,000円（学部入学時に支払っている場合を除く。）

学生教育研究災害傷害保険料……1,750円

学生教育研究賠償責任保険料……680円

（注）１　授業料は，入学後支払うことになりますが，納入時期については別途お知らせします。

２　在学中に授業料改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用されることになります。

３　入学料，授業料とも経済的理由により納付が困難でかつ学業優秀な者又は風水害等の災害を受けるなどの特別な事情がある者は，選考の上，全額又は半額の免除が認められる制度があります。なお，徴収猶予制度もあります。

４　日本人で日本学生支援機構の奨学金の貸与を希望する者は，選考の上，奨学金が貸与されます。

第一種……無利子　50,000円，88,000円から選択（平成28年度）

第二種……有利子５万円，８万円，10万円，13万円，15万円から選択(平成28年度)

11　その他

(1)　学生募集要項（出願書類を含む。）の請求は，自己のあて先を明記し，400円分の切手を貼った返信用封筒〔角形２号（33cm×24cm)〕を同封して，出願書類等提出先に請求してください。封筒の表には，必ず「平成29年４月入学博士前期課程第２次学生募集要項請求」と朱書きしてください。

(2)　出願書類受理後は，いかなる理由があっても書類の変更は認めません。また，出願書類は返還しません。

(3)　検定料の返還について

次に該当した場合は納入済みの検定料を返還します。

①　検定料を納入したが，出願しなかった場合

②　検定料を誤って二重に納入した場合又は誤って所定の金額より多く納入した場合

③　出願書類等を提出したが，出願が受理されなかった場合

返還請求の方法

上記①又は②に該当した場合は，下記の連絡先に連絡してください。「検定料返還請求書」を送付しますので，必要事項を記入の上郵送してください。

上記③の場合は，出願書類等返却の際に「検定料返還請求書」を同封しますので，必要事項を記入の上郵送してください。

連絡先　〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
愛媛大学財務部財務企画課出納チーム
電　話　089-927-9074，9077

(4)　出願書類に虚偽の記載があった者は，入学許可後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

(5)　個人情報の取り扱いについて
　出願書類に記載された氏名，住所等の個人情報は，本学における出願の事務処理，願書に不備等があった場合の連絡，試験の実施，合格発表，合格された場合の入学手続関係書類の送付等のために利用します。
　また，本選抜に係る個人情報は，合格者の入学後の教務関係（学籍，修学指導等），学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志願動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

12　問題，正解・解答例又は出題意図（学力試験）の開示

本研究科では，平成29年度入学者選抜試験の「問題，正解・解答例又は出題意図（学力試験）」の開示を次のとおり行います。

期　日　平成29年４月以降
請求先及び請求方法
〈工学系〉
- インターネットからの請求
  http：//www.eng.ehime-u.ac.jp/forum/master/
  にアクセスしてメールで請求できます。
- 直接又は郵送での請求
  下記の窓口又は郵送（400円分の切手を貼った角形２号の返信用封筒を同封）で請求してください。
  〒790-8577　松山市文京町３番
  愛媛大学教育学生支援部 教育支援課 工学部チーム

13　理工学研究科の概要

（１）研究科の組織

理工学研究科は，下表のように博士課程として工学系及び理学系の専攻によって構成されています。各専攻は，専任の教授，准教授等により組織されています。また，沿岸環境科学研究センター，地球深部ダイナミクス研究センター，プロテオサイエンスセンター，総合情報メディアセンター，学術支援センター，宇宙進化研究センターの協力も受けています。
さらに船舶工学特別コース，ICTスペシャリスト育成コースでは，関連企業の現職の技術者でもある客員教員等の協力も受けています。
この理工学研究科の博士課程には，博士前期課程と博士後期課程の課程が設置されており，特に博士前期課程は，理学部及び工学部から継続する教育を目指し，各専攻にそれぞれ教育コース制を取り入れています。

理　工　学　研　究　科

理工学研究科	博士後期課程	生産環境工学専攻			物質生命工学専攻		電子情報工学専攻			数理物質科学専攻			環境機能科学専攻									先端科学特別コース
		機械システム学 エネルギー変換学 生産システム学 社会基盤工学 都市経営工学 水圏環境工学			材料物性工学 材料開発工学 反応化学 物性化学 生物工学		電気エネルギー工学 電子物性デバイス工学 通信システム工学 情報システム工学 知能情報工学 応用情報工学			数理科学 基礎物理科学 物性科学 地球進化学			物質機能科学 生命物質科学 生物機能科学 生態環境科学								
	博士前期課程	生産環境工学専攻			物質生命工学専攻		電子情報工学専攻			数理物質科学専攻			環境機能科学専攻									
		機械工学コース	環境建設工学コース	船舶工学特別コース	機能材料工学コース	応用化学コース	電気電子工学コース	情報工学コース	ICTスペシャリスト育成コース	数理科学コース	物理科学コース	地球進化学コース	分子科学コース	生物環境科学コース								
学部	学科	工学部								理学部												スーパーサイエンス特別コース（環境科学・地球惑星科学・生命科学工学）
		機械工学科	環境建設工学科		機能材料工学科	応用化学科	電気電子工学科	情報工学科		数学科	物理学科	地球科学科	化学科	生物学科								

（2）研究科の概要及び担当教員

生産環境工学専攻
機械工学コース

講座	分野	研究概要	担当教員 教授	担当教員 准教授(講師)
機械工学	機械システム学	本分野は，機械力学，制御工学およびロボット工学などの研究分野で構成されており，機械の強度や機構設計，機械の運動制御に関わる問題について研究を行っています。 1．機械・構造物の力学的挙動に関する研究 衝撃力による材料の変形と強度，材料の組織構造と力学的性質，形状の最適設計，波動伝播による材料の粘弾性特性の同定 2．機械制御の知能化および流体制御機器開発に関する研究 介護ロボット等を目指した人間，機械協調運動系の研究，空気圧サーボ系の高機能化，ファジィ制御などの制御理論の機械制御への応用 3．ロボティクス・メカトロニクスおよび力学解析 人間型ロボット，ロボットアーム，移動車ロボット，人工筋肉，知的センシング，人工知能，マルチボディ・ダイナミクス，振動・制御に関する研究	〈曽我部雄次〉 岡本　伸吾 柴田　論	有光　隆 李　在勲 (呉　志強) 山本　智規
	エネルギー変換学	本分野には，熱工学，熱および物質移動学，流体工学，熱流体力学，機械数理などの研究分野があり，機械的エネルギーの変換，エネルギーの有効利用，工学への数学的アプローチに関わる問題について研究を行っています。 1．熱工学および水素エネルギーの有効・安全利用に関する研究 熱工学に関わる諸現象の解明，特に水素や代替燃料の天然ガス等のエネルギーの高度有効・安全利用燃焼技術，さらにセンシングに基づく漏洩水素拡散のリスク緩和手法に関する研究 2．熱と物質の移動に関する研究 伝熱機器や生産加工工程などで生じる諸問題の解決，およびプラズマや音響エネルギーの有効利用に関する研究 3．流体の運動に関する研究 高分子流体や繊維分散流体，界面活性剤などの非ニュートン流体の流動メカニズムの解明と応用に関する研究。管内乱流の高レイノルズ数領域における組織的構造の解明に関する研究 4．微分方程式の研究 工学における数学的問題，特に微分方程式の理論と数値計算法の研究	野村　信福 保田　和則 中原　真也	松浦　一雄 向笠　忍 (岩本　幸治) (宗野　惠樹)
	生産システム学	本分野は，材料力学，機器材料学及び特殊加工学などの研究分野で構成されており，主に機械構造用材料の強度特性とその評価，新材料創製とその応用について研究を行っています。 1．機械／構造材料の強度信頼性に関する研究 航空宇宙機，自動車，プラント，電子機器などに用いられる先進構造材料の破壊機構・強度向上機構の解明および構造健全性診断技術の確立 2．材料物性・強度および力学解析に関する研究 過酷環境(高圧力，高ひずみ場，高温，低温，腐食)下における種々の先端材料や機械・電子構造部品・製品のナノからマクロにわたる物性，力学的特性，材料・構造強度および信頼性評価に関する研究 3．高機能性新材料および表面・界面の創製とその工学的応用に関する研究 ダイヤモンド膜やカーボンナノチューブなどの新材料の物理的・化学的作製方法の開発，材料の表面・界面現象の原子論的解明の研究	黄木　景二 高橋　学 豊田　洋通	(堤　三佳) 朱　霞 松下　正史

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

生産環境工学専攻
環境建設工学コース

講座	分野	研究概要	担当教員	
			教授	准教授(講師)
環境建設工学	社会基盤工学	鋼・コンクリート構造物や土構造物などの土木施設を建設するための材料，設計法，施工法に関する研究を行っています。それぞれの研究テーマの主なものは， 鋼構造物関係では，構造物および薄肉断面部材の線形，非線形挙動と耐荷力，合成断面を有するシェル構造物の構造解析と設計，免震構造部材，超音波による非破壊評価法， 地震工学関係では，構造物の地震応答，地盤と構造物の動的相互作用と数値シミュレーション，液状化，動的特性計測法， 地盤工学関係では，土の圧縮・せん断特性，地盤および構造物の静的動的安定解析法，基礎の支持力，各種地盤災害の機構と対策，廃棄物処理地盤の工学的特性，沿岸域低平地や埋立地の液状化，破砕帯地すべりの土質工学的研究， コンクリート構造物関係では，鉄筋コンクリート部材の力学的挙動解析，劣化機構などの時間依存性挙動，コンクリート中での物質移動現象，コンクリート分野における環境負荷低減技術， 岩盤工学関係では，岩盤の物性や力学的挙動，岩盤不連続面の熱－水－応力－化学連成問題に関する研究です。	〈大賀水田生〉 氏家　勲 岡村　未対 中畑　和之 安原　英明	森　伸一郎 (木下　尚樹) ネトラ プラカシュ バンダリ
	都市経営工学	都市域における生活・生産環境の計画や開発保全・防災に関する研究を行っています。それぞれの研究テーマの主なものは， 都市・交通計画学関係では，交通施設整備と都市・地域計画，交通需要解析と交通政策の評価，交通事故分析と安全対策，地域防災計画，救急搬送と支援研究，合意形成支援システム，システムズアプローチ，土木計画論，インフラ維持管理， 地域マネジメント関係では，社会的ジレンマ，社会的コンフリクト分析，社会的ネットワーク分析，中心市街地活性化と都市計画に関する研究です。	吉井　稔雄 松村　暢彦	二神　透 倉内　慎也 羽鳥　剛史 全　邦釘
	水圏環境工学	都市や河川を含む流域，海岸域，沿岸海域などの水圏における自然環境特性を把握して，これらの領域での種々の開発行為と環境保全の調和および親水域の環境創造を目指すとともに，流域や沿岸域の防災機能を向上させるための研究を行っています。それぞれの研究テーマの主なものは， 水工学関係では，河道の流砂現象，河床変動の数値シミュレーション，河川構造物周辺の流れの可視化，地下水の流出解析，渇水対策シミュレーション・モデル， 大気・水環境関係では，流域における水環境システム，都市の水文・気象シミュレーション，局地気象の観測技術，再生可能エネルギーの応用開発， 保全生態学関係では，生物多様性評価・保全，河川生態系の保全・再生，河川生物の分布・動態解析，DNA種分類，疫病生態学，人為インパクトの河川環境への影響評価， 海岸工学関係では，高潮・波浪・津波の数理解析，プラスチックによる海洋汚染，海洋レーダを用いた沿岸地域防災システム， 沿岸海洋学関係では，海水交換と物質輸送，貧酸素水塊，赤潮，急潮，海洋数値シミュレーション，地球温暖化の沿岸地域への影響， 海岸地下水関係では，海岸付近の地下水汚濁物質の流動特性，海洋・陸水環境の保全対策法に関する研究です。	日向　博文 森脇　亮	井内　國光 (畑田　佳男) 門田　章宏 三宅　洋 渡辺　幸三

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

環境建設工学コースでは，環境建設工学に関する多様で幅広い教育・研究環境を提供し，先端的かつグローバルに活躍できる研究者・技術者を育成することを目指し，ガジャマダ大学（インドネシア）とのダブルディグリー・プログラムを2016年度より実施しています。本ダブルディグリー・プログラムは愛媛大学とガジャマダ大学の両校で講義を受け修士論文の研究を行い，修了時に両方の大学から同時に学位（工学修士）を取得できる標準修学期間2.5年間のプログラムです。このプログラムは環境建設工学コースに入学した学生が選択できます。

生産環境工学専攻
船舶工学特別コース

講座	研　究　概　要	担当教員
船舶工学	船舶工学特別コースでは，造船に関する高度でかつ広範な知識を有するとともに，造船関連企業において中心的な役割を担い，将来の技術革新にも対応できる技術者を育成することを目指しています。その実現のため，本コースでは，下記に示すような特徴を有する教育プログラムを実施します。 １．船舶工学に関する広範な知識の習得 船舶工学関連技術者として必須となる造船に関する広範な基礎的知識や応用的な知識の習得のみならず，将来の技術展開にも対応できる知識の習得を目指した教育を実施します。 ２．産学連携教育 船舶工学特別コース教員を中心とした理工学研究科教員と地元造船関連企業の連携による理論的・実務的な教育を実施します。 ３．インターンシップによる充実した実学経験 インターンシップでの実学経験により，高度な実践能力を身につけることができます。 ４．実務的な内容を考慮した修士論文内容 修士論文の内容として，従来の学術的な内容に加えて，技術開発等の実務的な内容をも考慮します。	教授 土岐　直二 柳原　大輔 および機械工学コースと環境建設工学コースの担当教員

物質生命工学専攻
機能材料工学コース

講座	分野	研　究　概　要	担当教員	
			教　授	准教授(講師)
機能材料工学	材料物性工学	１．量子材料学 ナノ材料，半導体，磁性体および非酸化物系セラミックスの研究を行っており，それらの作製法の開発ならびに機能発現機構の解明などを対象とします。 ２．固体物性学 メカニカルアロイング法・溶解法などを用いて作製した合金・化合物の物性研究を行っており，各種磁性や伝導性の微視的発現機構などを対象とします。 ３．物性制御工学 材料の諸性質を支配する微細構造の制御を原子スケールの視点などから行っており，金属，合金ならびに複合材料の相変態，析出挙動および機械的性質の制御，金属間化合物の相安定性の解析，半導体中の格子欠陥の生成挙動ならびに各種磁性材料などを対象とします。 ４．電気・電子物性工学 誘電・絶縁材料，導電性高分子，有機半導体の電気・電子特性について研究を行っており，絶縁材料の破壊現象や電界・電荷分布計測，導電性高分子の機能制御，有機半導体コロイドの光・電子デバイスへの応用などを対象とします。 ５．材料プロセス工学 機能性ガラス，スラグおよびセラミックスの研究を行っており，作製法や光学特性，熱的特性および化学的特性と微視的構造の相関性などを対象とします。	田中　寿郎 平岡　耕一 藤井　雅治 武部　博倫 小林　千悟	山室　佐益 井堀　春生 斎藤　　全 (阪本　辰顕) (全　　現九) (佐々木秀顕)
	材料開発工学	１．環境・エネルギー材料工学 地球や人に優しい材料の研究，具体的には医療・燃料電池・汚染ガスを検知するための化学センサ・汚染ガスをきれいにする触媒・放射性セシウムの除染や回収などに用いる様々な新しい機能性ナノ微粒子・複合材料・多孔質材料などの合成や応用の研究などを行っています。 ２．構造材料工学 合金元素の種類と添加量の最適化，および，加工・熱処理プロセスを駆使し，機械的特性（強度・延性・靭性）に優れた構造用金属材料の開発を行っている。また，転位論とフラクトグラフィーの観点から，機械的特性向上のメカニズムを解明している。 ３．材料接合工学 素材から製品への「もの造り」に欠かせない溶接・接合技術の研究開発を行っており，溶接の難しい高機能材料の接合技術の開発，インテリジェント制御による溶接の高機能技術の開発などを対象とし，溶接・接合の高度化を目指します。	小原　昌弘 薮谷　智規 青野　宏通	板垣　吉晃 水口　　隆

物質生命工学専攻
応用化学コース

講座	分野	研究概要	担当教員	
			教授	准教授(講師)
応用化学	反応化学	本分野は，有機分子・高分子を対象として，化合物の反応／合成と，構造／物性の両面から，新たな応用を拓く研究を行っています。特に，以下のテーマを中心として，機能性有機分子の開発と触媒・合成反応開発，高分子合成法と機能性高分子開発を行っています。 1．有機分子性金属の開発 2．多段階酸化還元を示すπ電子系の合成 3．新材料・新触媒の開発 4．新しい有機合成手法の開発 5．新しい高分子合成法の開発 6．新しい機能性高分子の開発	御崎　洋二 井原　栄治	林　実 白旗　崇 (伊藤　大道) (下元　浩晃)
	物性化学	物性化学分野は，以下のテーマを中心として新規な機能性物質の合成，開発及びそれらの機能性発現機構並びに応用について研究を行っています。 1．酸化物ガラス及び融体の構造－酸・塩基と酸化・還元特性 2．高分子膜への気体の吸着機構 3．湿度センサ及び各種ガスセンサの開発の研究 4．イオン伝導セラミック及び燃料電池電極の開発 5．機能性触媒及び環境触媒に関する研究 6．金属・有機ナノ複合構造の光学特性 7．レーザーによる新規ナノ粒子材料の創成 8．顕微レーザー分光を用いたナノ固体反応の解析	八尋　秀典 朝日　剛 松口　正信	山下　浩 山口　修平 (山浦　弘之) (石橋　千英) (八木　創)
	生物工学	本分野では，生命現象を化学反応として捉え，そのメカニズム解明の基礎的研究から，生物機能の有効利用技術と化学装置の開発にまで至る幅広い研究を行っています。 1．タンパク質生合成メカニズムの解明 2．リボソームの構造と機能に関する研究 3．生体外タンパク質生産システムの開発 4．白血球による生体防御機構に関する研究 5．スーパーオキシド生成酵素の構造と機能 6．微生物を用いた排水の処理特性の解明 7．余剰汚泥の処分法に関する研究 8．凍結濃縮分離操作を効率よく行うための装置の開発 9．試験管内タンパク質工学技術の開発 10．マラリアワクチン開発 11．無細胞系を用いたゲノム解析科学 12．真核型タンパク質合成系の単離 13．核酸関連タンパク質の構造と機能	坪井　敬文 堀　弘幸 髙井　和幸 澤崎　達也	〈田村　実〉 川崎　健二 高島　英造 小川　敦司 (野澤　彰) (平田　章)

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

電子情報工学専攻
電気電子工学コース

講座	分野	研究概要	担当教員	
			教授	准教授(講師)
電気電子工学	電気エネルギー工学	本分野では，電気エネルギーの発生輸送利用に関する研究を中心とした以下のような基礎的及び応用的研究を行っています。 1．電気絶縁材料の破壊現象，空間電荷分布測定および劣化診断に関する研究。高電圧パルス放電を利用した排ガス・排水処理に関する研究 2．離散力学系およびその結合系のエルゴード理論的研究並びにカオス・フラクタルに関する数理的基礎研究とその応用 3．パルス技術を利用した電気から光へのエネルギー変換とプラズマのバイオ応用の研究。具体的には，プラズマ遺伝子導入法，パルス放電光源の高効率化と無水銀化，レーザ分光や光計測によるプラズマの過渡解析とシミュレーションの開発 4．誘電体材料・機能性材料に関する実験および連続体理論や電磁気学に基づく解析	門脇　一則 神野　雅文	井上　友喜 尾崎良太郎 本村　英樹
	電子物性デバイス工学	本分野では，半導体の物性，電子素子に関する基礎から応用にわたる幅広い研究を行っています。具体的な研究概要は次のとおりです。 1．化合物半導体の単結晶や薄膜の作製，レーザ分光学を中心とした半導体結晶とデバイスの新しい評価技術の開発，新しい発光・受光素子及び高効率薄膜太陽電池の基礎研究，自己形成法による酸化物半導体ナノ構造の研究 2．超高真空装置を用いた原子レベルでの結晶成長技術を用いた高品質半導体量子ナノ構造の作製，ナノ空間に閉じ込められた電子や正孔の電気的性質・光学的性質の解明，ナノ構造を用いた新機能半導体デバイス（半導体レーザ，超高速トランジスタ・ダイオード）に関する研究	白方　祥 下村　哲	寺迫　智昭 石川史太郎
	通信システム工学	様々な情報を高速，大容量，高密度，高信頼度，廉価に伝送，記録，処理するための情報通信システムに対する社会の要請は留まるところを知らない。本分野では，こうした要請に応えるため，基礎理論から応用まで，情報通信システムに関する幅広い研究を行っています。主な研究内容を列挙すると以下のとおりです。 1．情報を高速，大容量かつ正確に伝送するためのアンテナや導波路の開発ならびに電波伝搬の電磁界解析と実験研究 2．光や電磁波の伝搬現象を制御する素子やシステムの科学やその応用技術に関する研究 3．ハードディスクドライブ，光ディスクドライブ等の情報ストレージシステムの高密度化を目指した，符号化方式，信号検出方式，復号化方式など信号処理方式の研究 4．マルチメディア通信を支える技術であるチャネルモデルと通信路符号化及び通信方式，またその応用としての電子通信エネルギ技術とスマートコミュニティに関する理論的及び実験的研究 5．フラクタル幾何学とその応用に関する研究	〈津田　光一〉 岡本　好弘	市川　裕之 都築　伸二 (松永真由美) 仲村　泰明

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

電子情報工学専攻
情報工学コース

講座	分野	研究概要	担当教員	
			教授	准教授(講師)
情報工学	情報システム工学	計算機によって構成された情報システムは，今日の情報社会に広く浸透している。したがって，情報システムの信頼性を向上させること及び計算機を高度に活用するシステムの開発に対する社会的な要請に応じる研究は必要不可欠であります。本分野では，これら情報社会を支える技術の確立を意図した教育・研究を行っています。具体的には，情報システムにおける高信頼化技術（計算機を利用した論理回路の設計法の開発，論理回路の検証，診断法の開発，フォールトトレラントシステムの設計），新時代に対応するソフトウェアシステム（高性能計算システムの設計，マルチメディア環境，並列計算環境における数式処理システムの開発，数値・数式融合算法の開発），並列・分散処理システム（マルチコンピュータ環境における負荷分散，スケジューリング，分散データベースの同時実行制御，マルチエージェント，情報配信システム）に関する研究などを行っています。	小林　真也 高橋　寛	樋上　喜信 甲斐　博 (遠藤　慶一)
	知能情報工学	計算機の処理能力の向上に伴い，計算機に処理させたい内容もより高度で多様なものになりつつあります。しかしながら，人間が与えたプログラムを単に高速かつ正確に実行するだけの現在の計算機では，その利用範囲に限界があります。高度で多様な問題を柔軟に処理するためには，人間の脳のように「膨大な知識を適切に組み合わせて新たな知識を作り出すとか，多くの例題から問題の解き方自体を発見するというような知的な処理」が不可欠となります。本分野では，このような知的な処理に関する研究として，人間のもつ知識をコンピュータ上で表現し利用する人工知能（知識工学）の研究，脳の情報処理方式に類似した学習機能をもつニューロコンピュータの研究，脳神経系の情報処理システムの研究などを行うとともに，これらの応用研究として，コンピュータを用いた画像処理の研究，バーチャルリアリティ，ヒューマンインターフェイス，電子透かし法の研究，情報セキュリティの研究，自然言語処理の研究などを行っています。	柳原　圭雄	二宮　崇 宇戸　寿幸 (井門　俊) (木下　浩二) (一色　正晴)
	応用情報工学	現代社会を支えるコンピュータ利用技術の基礎には様々な数理的方法があります。逆に，数理的方法に基礎を持たないコンピュータ利用技術はあり得ません。本分野では，このような視点から，科学技術計算の方法を中心に，応用数学，数値解析，ハイパフォーマンスコンピューティング，情報ネットワーク，情報メディア等の研究を行っています。また，情報システムの設計・構築，管理・運用に関する研究も行っています。多少具体的には，数理物理学の研究，理工学に現れる偏微分方程式の研究，代用電荷法と数値等角写像に関する研究，高精度計算，スーパーコンピュータを用いた大規模シミュレーション，情報の可視化，数学ソフトウェアの開発，情報ネットワークの構成と利用に関する研究，ソフトウェアの品質管理に関する研究，マルチメディア情報の生成，伝送，利用に関する研究等があります。	伊藤　宏 〈藤田　欣裕〉 野口　一人 川原　稔	岡野　大 黒田　久泰 阿萬　裕久 安藤　和典

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

電子情報工学専攻
ICTスペシャリスト育成コース

講座	概　　要	担当教員	
		教　授	准教授(講師)
ICTスペシャリスト育成	このコースの修了生の将来像は，ICTを活用して新たな付加価値を生み出せる人材です。ICTスペシャリストとは，実践的なICTスキルと多角的な視点から物事を捉える力を具備し，ICTシステムの企画，構築や企業内システムの情報化推進を進めるリーダーとなれる人です。このコースは，ICTスペシャリストを経て，さらには，現場の把握力や実践力といった，より主導的な立場を果たす高度な能力を獲得し，社会を変革できるトップ人材となることを目指している人たちのための教育コースです。 その実現のために，このコースでは，高度なICTスキルと知識の習得を目的とした授業，PBLや長期インターンシップ等による問題解決型演習・実習，ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れICTの視点から様々な物事を取り上げる発展的リベラルアーツ教育を取り入れています。これにより，ICT分野の専門的技術力に加え，技術者として共通に求められる基礎力の養成を実現しています。 また，産官学連携による教育もこのコースの大きな特徴の一つであり，ICT関連企業の協力による現役技術者による実践的教育や行政官による情報通信政策に関する講話などを取り入れています。さらに，毎年，企業の人材育成・人事担当者，技術者等を加えたカリキュラム検討委員会で授業内容やカリキュラムの検討を行い，コースで行う教育のスパイラルアップを図ることで，卒業生がリタイアまでのキャリアパスの中で輝き続ける技術者となるための教育を実践しています。	岡本　好弘 小林　真也 高橋　寛 野口　一人 〈藤田　欣裕〉	宇戸　寿幸 甲斐　博 黒田　久泰 都築　伸二 樋上　喜信 (木下　浩二) (遠藤　慶一)

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

数理物質科学専攻
数理科学コース

講座	研　　究　　概　　要	担　当　教　員		
		教　授	准教授	講師(助教)
数理科学	数理科学の諸分野の理論的研究を行っています。整数論や表現論などの代数学，数理論理学，位相群論を含めた位相空間論，離散群の幾何学，力学系理論，微分方程式の解の構造や性質を研究する微分方程式論，近年数理ファイナンスなど様々な応用をもつ確率論，また，数値解析，時系列解析，並列計算，パターン認識に関する応用数学など幅広い分野の研究を行っています。	シャクマトフ・ディミトリ・ポリソビッチ 中川　祐治 土屋　卓也 平野　幹 内藤　雄基 松浦　真也	平出　耕一 石川　保志 柳　重則 大塚　寛 山﨑　義徳 山内　貴光 尾國　新一 猪奥　倫左	藤田　博司

物理科学コース

講座	研　　究　　概　　要	担　当　教　員		
		教　授	准教授	講師(助教)
物理科学	物理学の諸問題の理論的研究，宇宙の観測研究，固体物性の実験研究を行っています。具体的な研究題目を列挙します。 ・場の量子論，格子ゲージ理論および素粒子の統一理論 ・相平衡の化学物理と緩和現象に関する理論 ・強相関電子系における金属・磁性・超伝導理論 ・散逸力学系などの非線形物理学 ・宇宙プラズマ爆発現象の理論的研究 ・各種磁性材料の基礎研究 ・新規熱電変換物質の創製とその応用研究 ・微小共振器構造の光物性研究 ・液中プラズマの基礎および応用研究 ・すばる望遠鏡やＸ線等の観測による宇宙・銀河・ブラックホールなどの構造と進化の研究	宗　博人 粟木　久光 栗栖　牧生 渕崎　員弘 前原　常弘 寺島　雄一 長尾　透	飯塚　剛 神森　達雄 小西　健介 清水　徹 中村　正明	近藤　久雄 近藤　光志 宮田　竜彦 鍛冶澤　賢

地球進化学コース

講座	研究概要	担当教員		
		教授	准教授	講師(助教)
地球進化学	地球が形成されてから現在に至る地球の歴史および変遷発展法則の解明や現在の地球の性質の解明を主たる研究課題とします。地球の表面構造と地球史における進化過程，地殻変動，島弧変動帯の岩石学的構造とテクトニクス，地殻－マントルの相互作用とダイナミクス，地球環境変動史，黒潮と沿岸海域との相互作用や物質循環，沿岸・陸棚域における海洋循環の力学過程に関する研究，マントル対流に関する研究，地球深部物質の物性とダイナミクスに関する実験的理論的解明，環境汚染およびその修復に関する研究などを行っています。	〈山本　明彦〉 入舩　徹男 榊原　正幸 井上　徹 土屋　卓久 堀　利栄 郭　新宇 森本　昭彦 亀山　真典 大藤　弘明	森　寛志 岡本　隆 土屋　旬 西原　遊 加　三千宣 鍔本　武久	境　毅 出倉　春彦 大内　智博 (西　真之) 楠橋　直 齊藤　哲 吉江　直樹

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

環境機能科学専攻
分子科学コース

講座	研究概要	担当教員		
		教授	准教授	講師(助教)
分子科学	物性化学，構造化学，有機化学，生物化学，環境化学の５グループを構成して連携しながら研究を行っています。物性化学グループでは固体物質の巨視的な性質（たとえば触媒作用，電気・磁気特性など）に注目してその分子論的解明，構造解析，新材料の創生の研究をしています。構造化学グループでは，最新の分光学技術を駆使して化学反応の素過程や光学異性体の性質を解明しています。光による内殻電子の励起がもたらす原子の組み替えや，光によって変換されたスピン配列のナノ秒レベルの超高速変化や，粘土中における光学異性体の構造などを調べています。有機化学グループでは，電子機能材料を志向した新規有機化合物の合成，生理活性物質の探索および合成などの研究をしています。生物化学グループでは，バイオ分析法を開拓したり，光，熱，塩分，水分などの環境変化どの環境変化に対する植物の応答を遺伝子レベルで研究しています。環境で研究しています。環境化学グループでは，内分泌撹乱物質（環境ホルモン）などヒトや野生生物の健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して，環境汚染の現状と推移，分布・挙動・ゆくえ，生物蓄積の特徴と曝露リスク等を地域的・地球的視点で究明しています。	長岡　伸一 高橋　亮治 〈林　秀則〉 宇野　英満 佐藤　久子 内藤　俊雄 国末　達也 座古　保 小原　敬士	谷　弘幸 島﨑　洋次 杉浦　美羽 倉本　誠 奥島　鉄雄 山本　貴 髙瀬　雅祥 野見山　桂	垣内　拓大 森　重樹 佐藤　文哉

〈　〉は平成30年３月31日定年退職予定の教員を示します。

生物環境科学コース

講座	研究概要	担当教員		
		教授	准教授	講師(助教)
生物環境科学	生体内で起こる諸現象を，分子から個体までの様々なレベルで解析し，総合的に理解すること，また地球上の自然環境が生物と物質構造との相互に影響しあい複雑に関連した系として成立しているという視点に立って，生物圏の環境変遷のプロセスと生物と環境との相互作用を解明することを目的とした研究を行っています。とくに，植物細胞の構造と機能，細胞小器官の形成過程，植物体の環境変化に対する適応的応答の生理学的機構，動物初期胚の細胞分化と形態形成，動物行動の神経基盤，脊椎動物における脳形態の進化，生物個体間の相互作用，共生の進化，生態系における物質循環，河川生態系，有害物質の環境動態と生態系への影響，微生物と他生物の相互作用，生態系と生態進化などに重点を置いています。	井上　雅裕 岩田　久人 加納　正道 和多田正義 中島　敏幸 井上　幹生 大森　浩二	村上　安則 佐久間　洋 佐藤　康 北村　真一 高田　裕美 畑　啓生	金田　剛史 仲山　慶

（別紙）

入学試験個人成績の開示

本研究科では，入学試験の個人成績及び教育コースでの順位を受験者本人に限って開示します。

ただし，合否判定基準において不合格となる者については，順位は「なし」と表示します。また，理学系については，合格者が５名未満の場合は教育コースでの順位は開示しません。

平成29年度入学試験の個人成績及び教育コースでの順位評価の開示は，次のとおり行いますので，希望者は期間内に申し込んでください。

請 求 者　　受験者本人に限ります。（代理人は不可）

請求期間　　平成29年４月５日（水）～４月14日（金）

（郵送による請求のみとし，この**期間内の消印**があるものに限り受け付けます。）

請求方法　　書面（記入例参照）により，平成29年度愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程受験票と402円分の切手を貼付し，自己のあて先を明記した返信用封筒（長形３号：12㎝×23.5㎝）を同封して，工学系は教育学生支援部 教育支援課 工学部チームへ，理学系は教育学生支援部 教育支援課 理学部チームへ請求してください。

開示方法　　受験者あて簡易書留郵便で送付します。

（請求書記入例）

平成　　年　　月　　日

愛媛大学大学院理工学研究科長　殿

請求者氏名　　印

愛媛大学大学院理工学研究科受験番号

入学試験個人成績・教育コース順位
開示請求書

平成29年度の愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程入学試験の個人成績・教育コース順位について，下記のとおり開示請求します。

記

１．入学試験の個人成績（各科目の点数・評価）
２．教育コースでの順位

開示請求するものを明記してください。

〒790-8577　松山市文京町３番
愛媛大学教育学生支援部　教育支援課　工学部チーム　TEL 089-927-9697
理学部チーム　TEL 089-927-9546